

第 50 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 26 年 12 月 22 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 8 名
- 出席委員 7 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、牧野直子、桑田政美、稲井信也、
中村保、高谷和彦、須貝昭子
- 以上 7 名
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
4. 議 題 1) 番組 みのたんらじお 多民族フェスティバル 2014
(小野原公園から公開生放送)
- 2) 審議
- 3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

今回は「みのたんらじお」を聴取いただきました。「みのたんらじお」は公開生放送ですが、通常の会場であるメイプルホールロビーではなく、今回は「多民族フェスティバル」の会場、小野原公園から放送しました。番組の放送開始は2006年8月で、当初は、箕面文化・交流センター地下の「インフォメーションセンターみのおたうん」の活性化の一環として、その場所から公開放送を行っていました。その後、ほぼ一定の集客が図れたことを受けて、2010年から場所をメイプルホール・ロビーに移し、新たなリスナーの獲得をめざし、現在に至っています。年に数回は、箕面市主催の大きなイベントの会場へ出向き公開放送しています。今回の、小野原公園での「多民族フェスティバル」では、催しに関わるさまざまなかたを次々とお呼びして、「みのたんらじお」以降の番組へも拡大し夕方4時まで、5時間の公開放送を行いました。このように、今年度は、かやの広場での「オクトーバーフェスト2014」や桜井での「100円商店街」などへも飛び出し、長時間の公開放送を試みることができました。どうぞご意見をよろしくお願いします。

(2) 審議

委員長：それでは、順番にご意見を頂きます。よろしく申し上げます。

委員 A：いろんなかたが出演されて、いろんな立場で「多民族フェスティバル」について伝えていただきました。催しに行かない人には伝わらないので、良い取り組みかなと思います。パーソナリティのテンションがさらに高くなって、ゲストが日本のかたの場合は良いんですが、外国のかたから引き出すときに、テンポも早いし、ハイテンションの中で言葉がうまくつながっていない箇所もあったので、その辺りを意識して工夫して、話しやすいようにもっていけるとなお良いと思いました。

委員 B：放送の目的、タッキーの存在を知ってもらうということでは、機会があれば、セッティングが大変でしょうが、もっと積極的に外に出る番組をお願いしたいと思います。内容については、強いて言えば、途中で会場のレポートを盛り込むとか、会場の臨場感がもう少し出る工夫があれば、より良かったと思います。

委員 C：とても雰囲気良かったです。もしもうひと工夫加えたとしたら、初めて小野原公園で開催されたイベントだったので、住民のかたの声を拾えたら良かったなと思って聴いていました。あと、テンションは非常に良かったというか、にぎわいのある感じが出ていました。

委員 D：聴く限りは主催者や出店者の声しか聴けなかったのが、来場者や地域のかたの声が伝わってこなかったことが残念でした。これを聴いていて、仮に自分が箕面に住んでいても、じゃあ会場へ行こうかという気持ちにはちょっとなれなかった。そこが残念でした。

委員 E：出演されている団体のかたが常は何をしているかということはよく分かりました。でも、その場所でやっている、その臨場感みたいなものは、全く聞こえなかったですね。ざわめきであるとか、お祭りの盛り上がっている雰囲気ですとか。パーソナリティの盛り上げ方自体は、番組開始時から比べると、雲泥の差で上手くなった。落ち着きが出てきて。昔みたいにあたふたせず、司会者としてはたいへん上手になっているし、聴きやすかったです。

委員 F：タッキーらしい番組だと思うんですよ。どんどん出て行って、いろんなブースを出してやると。ただ、みなさん仰ったように、スタジオでやるのと、公開でブースを出してやるのとの違いが、あまり変わらなかった。公開放送はPRにはなりますが、臨場感やざわめきなどが無い。無いというのはどういうことかということ、スタジオを持ち出しているだけ。参加者の「ノッてますか」とか「箕面ビール美味しかったよ」といった辺りのコメントを広げて、イベントが開催されて数時間経ち、「できあがっている」人も居るかもしれないし、「あそこおいしいよ」とかそういう生の声が聞こえてこないのが、結局ゲストを呼んでスタジオでやっても変

わらないというイメージ。会場でマイクを使って走り回ってレポーター的に音声を拾うことができるのであればぜひやっていただきたい。レポーターが居ないとすれば、育成も必要だと思いました。

それから、サテライト的ではなくて、もっと大小関わらずいろんな催しにどんどん出て行って、それを少しでも録音して、番組のなかでもっと使っていった方が良くないかと思います。英会話の教室とかヨガの教室とか、いっぱいやってるじゃないですか。居酒屋にマイクを持ち込んで良いし、例えば阪神が優勝したとか、いろんなトピックのときに居酒屋に行って話を聞く。そういうのがあっても良いと思います。今回の放送の中でも、ハット市のグループが「3つの酒場が出ています」って言っていた。その後音楽が流れたが、そこでその会場から雰囲気伝える。こういうときは音楽ではなく臨場感が出るような、聴いて行ってみたい、と思わせる技術。外へ出た場合、少し工夫が必要だと感じます。

事務局：この「みのたんらじお」の後の番組では、台本なしで、自由に、会場から出演者を突撃でつかまえてきたりとか、パーソナリティが屋台のものを食べて、子どもたちが周りに集まってくるという場面がありました。

委員 E：イベントのスタートのときに、屋台の雰囲気を録音しておいて流すとか、工夫。そこだけ聴く人にも臨場感伝える工夫というのは、プロなら当然すべき。そこをやらないと、タッキーのレベルは上がっていかない気がするので、ぜひ検討していただきたい。

委員長：イベントに出て行って公開放送することは良いことですし、みなさんが仰ったように、いろんな方法を考えながらやっていかなかったら、ただスタジオに居て、ただゲストとやりとりして音楽を流す、というのではいつもの形。新しいことに挑戦するのはエネルギーが要りますが、克服していかなければ新しいことができない、また成果も出ませんので、公開放送時の工夫を考えていってください。

事務局：はい。ワイヤレスマイクで会場内のようすをレポートする試みなどを挑

戦しています。臨場感の課題は、催しのステージ近くに放送のブースがあると、逆に放送をスピーカーから聞いていただくことに問題が生じたり、ステージの邪魔になったりということがあります。今回の「多民族フェスティバル」では、放送ブースは、ステージと離れた場所に組ませてもらいました。そのため、周りに音がなく、臨場感に欠けてしまったのかもしてません。その辺りのステージの音との兼ね合い、というのは課題です。また、別の公開放送では、放送ブースから離れた場所へレポーターを出して、随時ツイッターで状況を写真とともに伝えるという工夫をしてみました。会場に足を運んでいただけるような工夫は今後も取り組んでいきます。

委員 B：まあ一歩ずつ前進だと思うので、いろんなテストをしてください。タッキーを知ってもらうのがひとつの目的。それよりもっと大きな目的は「タッキーは面白いぞ」と思わせること。公開放送することで人が集まってきたら、次から次へ「タッキーさんぜひ来てください」とお呼びがかかるくらいが一応目的だと思うので、知ってもらうことと「面白い」というのを感じてもらうための工夫を考えてください。

委員長：いろいろなご意見を頂きました。どうも、長時間ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 26 年 12 月 22 日

箕面FMまちそだて株式会社 番組審議会